南郷

札幌市立南郷小学校　学校だより　第１２号
令和７年２月２８日

【学校電話】011-861-9305
【学校ホームページ】
https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/

ほめるアイドリングで自己肯定感を高める

校 長 関根治彦

早いもので、令和６年度も残すところ１か月となりました。今、南郷小学校では、スマイル活動や委員会活動が５年生中心となり、６年生から引継いています。６年生は、 総合的な学習「卒業プロジェクト」として、これまでの感謝の気持ちをどのように伝えていくかを話し合い、何か実行しようとしているようです。また、それぞれの学年が、学習や生活のまとめをしながら、今年度成長したことを振り返り、新学年へ向かう期待感を高めているところです。

さて、先日校内を回っているときに６年生が１年間の振り返りで、ちょうどスマイル活動（縦割り異学年活動）の話をしている場面でした。「準備に中休みがつぶれたりして、大変だったけど、下の学年の子が楽しそうに活動してくれていてよかった。」「終わった時、『ありがとう』って言ってもらった。」「今は、やってよかった。がんばってよかったと思う。」と感想を言っていました。今年度からスタートした「スマイル活動（縦割り異学年交流）」ですが、６年生にとって最も大変だったことは、縦割り異学年交流のイメージがなかったことではないでしょうか？発達段階の違う学年を交流させるためには何をしたらいいのか？どのように進めたらいいのか？すべてが試行錯誤であり、毎回の準備が大変だったことは想像に難くないです。そして、思い通りにならないことやうまくいかないことを繰り返しながら、頑張ってきたことが前述した感想となって表れてきているのではないでしょうか。

私が教職に就いた年はちょうどバブルの終わり頃でした。友人と飲んでいるときに「1億円の契約を取った」「ボーナスが100万を超えた。」など“すごい”話をしているときに友達から「関根、教師って、どんな楽しみがあるの？」と聞かれました。私は、その当時の学年主任の先生の受け売りではありましたが、「今日は〇〇くんがこんなことができるようになったとか、△△さんが手を挙げて発表したなど、小さな変化と喜びがいっぱいだよ。」と答えました。しばらくして、結婚して、子どもが生まれてみると毎日の子どもの小さな変化や成長がうれしくて仕方がありませんでした。そして、この「小さな変化」の喜びは、教師だけのものではないことに気付きました。

しかし、私たち大人は残念なことにこの「小さな変化」は意識して見付けようとしないと見付けられません。そして、小さな成長に目を向けることなく、「〇〇はやったか」「〇〇をがんばれ」と要求ばかりを口に出してしまうことはないでしょうか。人はみんなそれぞれ「強み」「弱み」を持っています。その「強み」は伸びやすく、「弱み」は伸びにくいものです。「強み」を引き出し伸ばしていくと、「弱み」にも変化がつながっていきます。がんばって伸びてきたことをほめられると、がんばることが好きな子になり「弱み」にも立ち向かっていけるからです。それが自己肯定感を高めることにつながるのです。

車のエンジンをかけた状態にし、いつでも発進できるようにしておくことを「アイドリング」といいますが、私たち大人は、いつでもほめることができるような「ほめるアイドリング」をしておき、子どもの小さな変化に気付いたときにタイムリーにほめることができたらいいなと思います。それが、子どもの自信ややる気を育むことにつながるのではないかと思います。

年度末を迎え、振り返りの活動が増えてくると、子どもたちの成長がいろいろな場面でたくさん見られるようになってきます。本校は、今年度、全教育活動を通して子どもたちの自己肯定感を高めていくことを目標に取り組んできました。11月に実施した子どもたちへのアンケート（札幌市の共通指標）でも、「自分にはよいところがある」という自己肯定感を問う項目で９０％の子どもたちが、肯定的な回答をしています。それが前述の６年生の姿となっているのです。子どもたちの小さな変化に気付き、それをしっかりと伝えていける大人でありたいと思います。